

一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第105号 発行日:2023.8.23

News No.105 Japan Association of Human Relations August 23, 2023

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室
E-mail: jahrijimukyoku@gmail.com URL: <https://jahr.jp/>

[内容] ☆巻頭言 ☆北から、南から ☆順子の映画鑑賞記⑨ ☆記念出版原稿募集 ☆学会賞表彰案内 ☆事務局日より

《巻頭言》

第31回全国大会のご挨拶

大会長 田中 康雄
(西南学院大学教授)



第31回全国大会を福岡市にございます西南学院大学で、9月9日(土)に開催いたします。

今回のテーマは「With コロナ時代における対面コミュニケーションの重要性と人間関係の構築に向けて」です。

本大会のシンポジウムでは、地域共生社会における人間関係について、複数のシンポジストが異なる視点から報告を行い、参加者を交えて議論を重ね、日本人間関係学会が捉える「地域共生社会における人間関係のあり方とは何か」を考えていきます。

具体的には、地域共生社会の人が人とつながり支え合う仕組みづくりの実現に向けた、人間関係の構築のあり方について、①子育て支援に関する心理学研究者の視点、②若年層に関する教育学研究者の視点、③高齢者に関する社会福祉実践家としての視点、を通して考察し、さらに、当日参加者の意見を踏まえることにより、日本人間関係学会の会員同士のつながりを通じた、地域共生社会の人間関係あり方を示していきたいと思います。

次に、特別企画として、「地域共生社会に向けた福岡市早良区西新の地域実践と会員交流」を昼食含めて実施します。西新の地名の由来は、江戸時代、現在の中央区今川付近が「西町」と呼ばれ

ていたのに対し、樋井川以西を「新西町」と呼んだことに由来され、これがいつしか逆転して「西新」という地名になったといわれています。西新の街の特徴:文教地区であること、住みやすさから転勤族向けのマンションも多く、転勤族の街と呼ばれることもあります。さらに、西新商店街は、地下鉄の西新駅から藤崎駅の約1.5km 続き、細かくは7つの商店街から構成され、約280の店舗が存在しています。全国の多くの商店街がシャッター商店街と呼ばれる中、3万人近い歩行者が平日の西新商店街に訪れているとされています。それらの地域特性を踏まえた上で、対面での全国大会開催ならではの会員同士の親睦を、地域散策し昼食を交えながら、深めていきたいと思います。

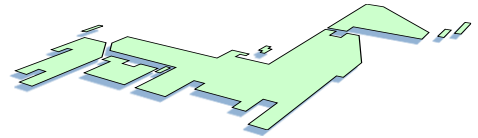
研究発表につきましては、研究・実践発表を設定し、発表15分、質疑応答5分の計20分の時間で行ないます。

本大会が、学会の会則で定められた「様々な背景をもつ人々が共に集い、人間関係の充実・促進・創造を図る。豊かな人間関係の創造について、学際的研究・交流を深める。人間関係の危機の回復やよりよい発展を実現できる手掛かりや可能性を探究し、現実の人間生活の発展に貢献する」という目的を達成するために有意義な大会になればと考えています。

当日ご参加される皆様とお会いできることを心から楽しみにしております。

北から、南から

人間は、障害に向き合ったときに自らを発見するのだ



今噂のチャットGPTからみた人間関係

谷川和昭(関西福祉大学・本誌編集委員)

今号に限って1本も投稿がなかった。そこで、日本人間関係学会の会員に、「北から、南から」について、気の利いたエッセイを8個お願いします。そんな質問をチャットGPTに投げかけてみた。

すると、こんな回答が返ってきた。

申し訳ありませんが、具体的なテーマや内容についての情報が提供されていないため、「北から、南から」というテーマに関する気の利いたエッセイを8つも提供することは難しいです。もしご希望に合わせてエッセイを提供する手助けが必要であれば、以下のようなテーマやアイデアを提供することはできますが、具体的な内容や詳細な指示がないため、適切な内容かどうかは不確かです。以下のアイデアをご参考までに。

1. **北と南の対比にみる文化の多様性** 北半球と南半球の文化や習慣の違いに焦点を当て、地理的な要因がどのように文化に影響を与えているのかについて探求します。
2. **環境変化と人間関係の変遷** 地球温暖化の進行によって北極や南極地域の環境が変化する中で、人々の生活や人間関係に与える影響を考察します。
3. **地理的な距離と心理的な結びつき** 地理的な距離が人々の関係性やコミュニケーションにどのような影響を与えるのかについて考え、遠く離れた場所からでも強い絆を築く方法を模索します。
4. **人種や文化の違いを超えたつながり** 北半球と南半球に住む人々が、人種や文化の違いを超えてどのようにつながりを築いているのかについて論じます。
5. **旅行と人間関係の形成** 北から南への旅行が、新たな人間関係を形成する契機や、既存の関係を深める手段として果たす役割について考えます。
6. **地球規模の課題への共同対応** 北半球と南半球の国々が、気候変動や環境問題などの共通の課題にどのように協力し合っているのかについて分析します。
7. **デジタルコミュニケーションと国境のないつながり** インターネットやソーシャルメディアが北と南、国境を越えて人々をつなげる方法について考察し、その影響を検証します。
8. **地域間の共通点と相違点から見る人間関係の複雑さ** 北半球と南半球の地域間での共通点や相違点を通じて、人間関係の複雑さや多様性について探求します。

上記のアイデアを元に、具体的なテーマや視点を選び、それぞれのエッセイに展開していくことができます。お手伝いできることがあれば、遠慮なくご質問ください。

へえ、なるほどと思う部分もあるが、さすがに「北半球と南半球」という表現には苦笑いを隠せなかった。

気を取り直して、日本人間関係学会のこれからについて回答を求めてみた。すると…、

私の知識は2021年9月までのものですので、最新の情報は提供することができません。しかしながら、一般的な観点から、日本人間関係学会が今後取り組む可能性について考えてみましょう。

研究の発展と多様性の尊重 日本人間関係学会は、人間関係に関する研究と理解の深化を継続的に推進していくでしょう。社会の変化や多様性にも対応し、異なる背景や文化を尊重しながら、人間関係の理解を深めることが重要です。

テクノロジーと人間関係の結びつき 近年、テクノロジーの進化により、人々の人間関係が変化しています。日本人間関係学会は、テクノロジーが人間関係に与える影響や、オンラインコミュニケーションのあり方についての研究や議論を展開することが考えられます。

メンタルヘルスと人間関係の関係 近年、メンタルヘルスの重要性が高まっています。日本人間関係学会は、健全な人間関係がメンタルヘルスに与える影響や、人々の心の健康をサポートするためのアプローチに焦点を当てることができるでしょう。

国際交流と共通の課題に対する取り組み 人間関係に関する研究は国際的な共通課題でもあります。日本人間関係学会は国際的な交流を通じて、異なる国や文化での研究成果の共有や議論を行い、共通の課題に対する取り組みを展開することが考えられます。

これらはあくまで一般的な観点からの予想であり、日本人間関係学会の具体的な取り組みは公式の情報を確認することをお勧めします。最新の情報については、公式ウェブサイトや学会の関係者にお問い合わせいただくことをおすすめします。

このように、一般的観点からだとは言えるものの、これらの回答は正鵠を得ていると言ってよいのではないかと思えるのであった。また、過去の機関誌をみる限り、多かれ少なかれ、または早かれ遅かれ、こうした取り組みは学会としてもなされてきていることが確認できる。

それにしても、このようなAIが生成した内容を紙面でお借りするのは、何とも味気ないものですね。

次号以降では再び本コーナーが会員諸氏の「生の声」で埋め尽くされることを祈念したい。

学会ニュースは年2回発行（2月・8月）

「北から、南から」のコーナーは会員であれば、どなたでも投稿できます。

お寄せいただきたいのは、**400～1,000文字**程度です。多少オーバーしても大丈夫。

日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。

1月末までの投稿分は2月発行のニュースに掲載されます

7月末までの投稿分は8月発行のニュースに掲載されます

送付先 広報委員会（谷川）まで tanikawa@kusw.ac.jp

順子の映画鑑賞記

第9回 「ノートルダム炎の大聖堂」

橋本順子



『ノートルダム大聖堂』は、850年以上の歴史を持つパリにあるローマ・カトリック教会の大聖堂です。

フランス観光の際には、この世界遺産でもあるゴシック建築の最高峰としても名高いノートルダム大聖堂の見学は、必ず日程に組まれる重要なスポットの一つと言えると思います。その大聖堂の火災は、2019年4月15日に起きました。まだ皆様の記憶に新しいことと思います。今回は、そのノートルダム大聖堂の火災を描いた作品をご紹介します。

この映画は、ノートルダムの鐘の音で始まり、鐘の音で終わります。特定な主人公はいません。主役は、消防士とノートルダム寺院の職員、そして、火災を遠巻きに見ている一般市民です。リアルで迫力ある火災の映像は、大規模な実物大のセットを組み、実際に燃やしたとのこと。IMAXカメラで撮影し、VFXを用いて、まるでドキュメンタリーかと思間違うかのような迫真あるシーンが映し出されます。実際の火災の映像も使われているようですが、現実の火災現場にいるような緊張感があり、まさに映画を鑑賞するのではなく、映画を体験するような臨場感を感じました。

激しく燃える火は、順々に燃え移っていきます。赤い炎は火柱を上げ、鉛色の噴煙はパリの空高く昇っていきます。大聖堂の中は狭く、複雑で迷路のようです。消防士の荒い息遣いは、燃えさかる炎により天井が崩れ落ちる音と放水される水の音にかき消されますが、消防士の命をかけた消火活動は、歴史的建造物を守るといった強い意思が感じられます。火災に立ち向かう消防士の知恵と勇氣、勇敢さに感動しながらの鑑賞でした。ホースの太さや水圧に言及する場面もあり、興味深い内容も盛り込まれていたと思います。何より現実には一人の死者も出さなかったことは特筆すべきことだと思います。

また、『いばらの冠』の聖遺物の搬出にまつわるシーンはハラハラドキドキでしたが、「文化財と命」どちらを第一とすべきなのだろうか、宗教的な側面も併せ考えさせられました。教会での火災ということもあり、多くの信者が大聖堂を取り囲み、聖歌を歌い、消火活動を見守りながら祈る姿は、キリスト教の信仰を描いた作品とも言えるのかと感じられました。

さて、ここで「火」について考えてみたいと思います。人類は火を創り出し、使うことを可能としたからこそ、進歩し文明を築き上げたと言われています。火には、生産的な側面と消失させるといった側面があります。恩恵と破壊と言えるのかも知れません。歴史的建造物がその火によって災いとなることでは、すべての要因や出来事の功罪を考えます。火災については、たばこの火の不始末、放火、あるいは電気系統の故障が原因と言われていますが、放火説もあり、本作品では原因については具体的には描かれませんでした。

ちなみに聖書においても、「火」は神聖であり、出エジプト記の燃え盛る柴やヘブライ人を導く火の柱、聖霊が炎のような舌など、火にまつわる表現が数多にあり、「火」の言葉が多用されています。一方で、ヨハネの黙示録では、神の言葉を炎の剣とするなど、火で焼き尽くされる、火の池に投げ込まれると言った表現もみられます。【Wikipediaより引用あり】

【ノートルダム 炎の大聖堂】

2021年/フランス・イタリア合作 2023年4月7日 日本公開

監督：ジャン＝ジャックアノー（中世の教会での顛末を描いた「薔薇の名前」でも有名）

脚本：ジャン＝ジャックアノー／トマ・ビデガン



日本人間関係学会30周年記念プロジェクト 記念出版の原稿募集について

2023年8月17日

プロジェクトチーム 谷川（和）・田中（典）・森・三好・早坂
編集幹事 谷川（和） tanikawa@kusw.ac.jp

◎タイトル

『わたしからあなたへー北から、南からー』（仮）

◎発行日

本学会の創立日は1993年11月14日です。今年の11月14日に30周年を迎えることとなります。このことを記念して、本学会ではプロジェクトを立ち上げ、【全員参加型のエッセイ・作品集】の刊行準備を進めています。発刊は、第32回大会前を目標にし、すべての学会員に配本済みの状況を目指します。

◎監修、編集、執筆者（予定）

日本人間関係学会編 編集委員 谷川（和）・田中（典）・森 監修 三好・早坂
執筆者 希望者全員、本学会がお世話になった関係者

◎コンセプト

本学会の学会ニュースで風物詩的・名物的な存在でもある「北から、南から」をベースにします。

「北から、南から」は書き手と読み手の言わば「関係・つながり」を結ぶコーナーであり、福祉・介護・教育・保育・心理など専門性からの発信も多く含まれています。学会ニュースでは毎号、「日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。」と寄稿を呼びかけております。

そこで、今回のエッセイ・作品集には、これまでに掲載されたエッセイ・作品のピックアップ、そのリライト、あるいは新規寄稿を視野に置いて、内容の濃いものに仕上げられたらと考えております。

◎原稿の募集と期限

学会ニュース第105号（8月）と会員への一斉配信メール（にてGoogle Formsで提出できるURLを）別途案内します。

原稿の提出期限は12月15日（金）、完成原稿の形で提出いただき、体裁を揃えたのち2月上旬までに編集委員会が出版社に持込します。

◎書籍の構成内容

テーマ性を盛り込みます。原稿はそれぞれ「自然の章」「倫理の章」「幸福の章」「調査の章」「地域の章」「教育の章」「家族の章」「職場の章」「その他」に振り分けます。「〇〇の章」は入替や差替、追加も編集過程で考えられますので、その点はお含みおきください。

サイズはA5判、並製。100名から1名あたり2ページ提出いただけたとして、はしがき（理事長・副理事長）やあとがき（プロジェクト）等（等には縁のある方）を含め250ページ以内を予定しています。

◎予算、その他

学会経費や協賛金を充てることが理事会で承認されています。ただし、配本費用を込みで50～60万円以内になるよう留意します。必要最小限の経費で賄うため、印税や原稿料はございません。ただし、書籍の売上げ分については学会に還元され、学会財政の安定化や活動の充実化に寄与する予定です。

以上

原稿はこのフォームから提出いただきます。フォームのURLは別途メールから案内します。

私からあなたへ (北から、南から)

30周年記念出版『私からあなたへ（北から、南から）』[エッセイ・作品集] 申込フォーム

日本人間関係学会編「エッセイ・作品集」の原稿募集について

日本人間関係学会は、1993年11月14日に創設され、今年11月14日に30周年を迎えます。学会はこの30周年を記念して「エッセイ・作品集」の出版準備に入っております。

今春、学会内にプロジェクトを発足し、記念出版する本の内容は学会ニュースで風物詩的・名物的な存在でもある「北から、南から」をベースにすることに決まりました。

学会ニュースは現在、年2回（2月と8月）発行しておりますが、毎号、「日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。」と「北から、南へ」の寄稿を呼びかけてきております。

今回の記念出版物には、これまで掲載されてきた珠玉の原稿の数々、またはそのリライト、あるいは新規のご寄稿を学会員の皆さまからお寄せいただければ幸いです。

応募資格：学会員・元学会員・学会関係者（学会がお世話になった方）

原稿締切：2023年12月15日（金）

原稿枚数（文字数）：400字詰め原稿用紙1-3枚、400～1,000文字程度（イラスト・写真もOK）

出版予定日：2024年度の大会前までを予定。

送本：学会員と関係者に1冊ずつ郵送にて配本予定。

サイズ・頁：A5判・200-250頁（予定）

目次内容：

「自然の章」「倫理の章」「幸福の章」「調査の章」「地域の章」「教育の章」「家族の章」「職場の章」「その他」に原稿を振り分けます。

記念出版プロジェクトチーム：

谷川和昭・田中典子・森千佐子・早坂三郎・三好明夫

校正：

学会プロジェクトチーム内でおこないます。予めご了承ください。

予定出版社には原稿が揃い次第、プロジェクトチームで簡単に編集した上で提出することとなっております。

お願い：

ご所属等の変更があった場合は速やかに事務局までご一報ください。

本出版物に個人の印税や原稿料は発生しません。予めご承知おきください。

また、学会ニュース最新号に使用させていただく場合がございます。この点もご了承ください。



ファイルをアップロードしてこのフォームを送信すると、Google アカウントに関連付けられている名前と写真が記録されます。入力したメールアドレスのみが回答に含まれます。

*** 必須の質問です**

メールアドレス *

メールアドレス

メールアドレスについて

ご連絡が必要な場合に備え、メールアドレスを収集させていただきます。メールアドレスを含む個人情報は本件以外のことには一切使用いたしません。

また、送信後、ご入力いただいたメールアドレスに、返信メールが届きます。万が一届かない場合は、メールアドレスに誤りがある可能性や迷惑メールフォルダに振り分けられている可能性がございますので、ご確認いただければ幸いです。

会員番号

半角

回答を入力



入会年度 *

恐れ入りますが、教えてください。

選択

氏名（ふりがな） *

例）山田 花子（やまだ はなこ）

回答を入力

所属と肩書き *

例）XYZ会社代表取締役、XYZ学校校長

回答を入力

タイトル *

「 」は不要です。

回答を入力

サブタイトル

サブタイトルがある場合は、「—」や「～」などで括ってください。例）—○○○○○○—

回答を入力

本文 *

400～1,000字程度の本文を入れてください。

回答を入力



写真や画像

本文に写真やイラストの挿入をご希望される場合は著作権にご留意の上、10MB以内でファイルのアップロードをしてください。

 ファイルを追加

掲載希望の章について

特にこの章で掲載をという希望がございましたら教えてください。以下（の章）は、これまで学会ニュースに掲載されてきた「北から、南から」の原稿・作品を参考に作成した章の見出しです。暫定ではございますが、もしよければ掲載希望の章として、当てはまりのよいもの3つまでお選びいただけます。お選びになられていなかった場合は、プロジェクトチームで振り分けます。また、今後新たに章を設ける場合も見込まれますが、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

- ☐ 「自然の章」
- ☐ 「倫理の章」
- ☐ 「幸福の章」
- ☐ 「調査の章」
- ☐ 「地域の章」
- ☐ 「教育の章」
- ☐ 「家族の章」
- ☐ 「職場の章」
- ☐ 「芸術の章」

原稿は学会ニュース最新号に使用させていただく場合がございます

- ☐ 同意します
- ☐ 同意しません

備考

回答を入力



日本人間関係学会賞表彰についてのご案内

過去10年間に研究発表もしくは実践発表（及び学会誌『人間関係学研究』への投稿）を合計5回以上行い優秀な業績を上げてきた会員に、日本人間関係学会賞を授与する。

附則：

- ①応募者は日本人間関係学会賞申請書式に、氏名、大会名、受賞会場、研究発表名を連記し、9月5日(火)15:00迄に、事務局宛に申請する。
- ②研究発表、実践発表及び原著論文は、筆頭発表者及び筆頭執筆者に限る。
- ③不正があった場合は賞を没収し、処分の対象とする。
- ④審査は、理事長、副理事長、理事で行う。

以上の規定に基づき、学会賞の応募を受け付けますので、条件を満たしている会員の申請をお待ちしています。

尚、申込は学会事務局 jahrjimukyoku@gmail.com 迄、送信ください。

日本人間関係学会賞について

- ・学会賞に応募される方は、以下の表に記入し、事務局までメールでご提出ください。
(学会事務局メールアドレス：jahrjimukyoku@gmail.com)
- ・締め切り **2023 年 9 月 5 日(火)15:00 迄。**
- ・受賞者には、事務局よりメールにてお知らせいたします。

日本人間関係学会賞応募表

氏名 _____

会場名	タイトル	年 月
1.		
2.		
3.		
4.		
5.		
第 巻 号		

学会賞応募表記入上の注意

- ・学会賞規定をお読みください。
- ・研究・実践発表会場名は、大会が実施された大学名等を記入ください。
大会での発表が誌上であった場合は、会場名には「誌上発表」とご記入ください。
- ・『人間関係学研究』への投稿は、第○巻○号をご記入ください。

以上

本様式は、学会公式ホームページ「お知らせ」からダウンロードいただけます。

<https://jahr.jp/gakkai/>

事務局だより

【会員動向】（2023年2月11日～2023年8月20日）

2023年8月20日現在

会員122名（正会員：95名 一般会員：9名 準会員：18名 賛助会員：0）

〈入会者〉 正会員：8名 ・戸次 佳子 ・佐久間 良恵 ・杉本 太平 ・川竹 大輔
・児玉 渉 ・尾籠 君世 ・吉川 美雪 ・天野 美和子
準会員：6名 ・荻野 梨紗子 ・濱田 佳那 ・佐々木 水穂 ・金田 望来
・足立 歩理 ・叶 寧 （敬称略）

〈退会者〉 7名（正会員：7名）

〈自然退会〉 8名（正会員：7名 一般会員：1名）

本年度より、会計年度が4月1日～翌年3月31日となりました。2023（令和5）年度会費のご案内をさせていただきましたが、お支払いがお済みでない方は、お願いいたします。併せて、ご所属・ご住所を変更された場合には、学会事務局までご連絡ください。

第31回全国大会で、皆様にお会いできますことを楽しみにしております。

暑い日が続きます。体調にはくれぐれもご留意ください。

これ良いかも…、ケント・M・キースの逆説の10ヵ条

- ① 人は不合理で、わからず屋で、わがままな存在だ。それでもなお、人を愛しなさい。
- ② 何か良いことをすれば、隠された利己的な動機があるはずだと人に責められるだろう。それでもなお、良いことをしなさい。
- ③ 成功すれば、うその友だちと本物の敵を得ることになる。それでもなお、成功しなさい。
- ④ 今日の善行は明日になれば忘れられてしまうだろう。それでもなお、良いことをしなさい。
- ⑤ 正直で率直なあり方はあなたを無防備にするだろう。それでもなお、正直で率直なあなたでいなさい。
- ⑥ 最大の考えをもった最も大きな男女は、最小の心をもった最も小さな男女によって撃ち落とされるかもしれない。それでもなお、大きな考えをもちなさい。
- ⑦ 人は弱者をひいきにはするが、勝者の後にしかついていかない。それでもなお、弱者のために戦いなさい。
- ⑧ 何年もかけて築いたものが一夜にして崩れ去るかもしれない。それでもなお、築きあげなさい。
- ⑨ 人が本当に助けを必要としていても、実際に助けの手を差し伸べると攻撃されるかもしれない。それでもなお、人を助けなさい。
- ⑩ 世界のために最善を尽くしても、その見返りにひどい仕打ちを受けるかもしれない。それでもなお、世界のために最善を尽くしなさい。

出典「ウィキペディア（Wikipedia）：フリー百科事典」ケント・M・キース

（編集後記）

ロシア、中国、北朝鮮、等々の世界的緊張が止むこともなく、ずっと続いている。他方、自然災害が猛威を奮っている。災害を間近に目にしたとき、「そんなこと（戦争、紛争）をやっている場合じゃないでしょ！」と叫びたくなる。『世界を平和にする第一歩』（河出書房新社刊）の中で、著者の東田直樹に、「人生の中で絶対遭遇してはならないできごと」、それが戦争だと教わる。どうしたら、仲良くなれるの…？（谷川和昭）